

令和元年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間・最終)

蒲刈中学校区 校番 24 学校名 呉市立蒲刈中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	真 変化に対応して挑戦でき、「深く」「先を見て」考え行動する生徒を育てる	知識・技能の確実な定着 ★確実に定着させた学習内容を活用し、困難や変化を多面的にとらえ、解決しようとする生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善のために授業研究をこれまでに延べ数で29回、東京大学や広島大学の先生を招聘しての職員研修も7回実施している。 ・生徒の振り返りの肯定的評価の割合は100%にはならなかったが、継続した取組で記述内容や分量などの質の向上がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も研修や授業研究や研修を実施し、深い学びが実現できるように授業改善を図っていく。 ・授業のねらいと振り返りを意識させ、学びの質の向上を図っていく。
		思考力・判断力・表現力の育成 ★グローバルな視点や多様な考え方を踏まえて先を読み、課題解決や未来を拓くための行動ができる生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・100問テストなどで基礎学力の学力向上の定着を図り、一定の成果が出たと考える。 ・体力測定について、男女ともに課題の項目を重点的に取組、課題の項目について向上させることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も基礎学力の向上を目指して、計画的に100問テスト等を実施していく。 ・保健体育科の授業を通して、自己記録を意識させたり、自己の課題を意識させることで、意欲の向上を図っていく。 ・くれチャレンジマッチスタジアムや授業等での取組を継続し、自己記録の更新を目標に取り組む。
			<ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループでの活動を意図的に設けることで、ともに高め合う雰囲気醸成することができた。 ・ノート指導では、活用の好事例を表示したり、直接指導を行ったりして取り組んできたが、充実した取組になっていない生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい学力に求められる「主体的・対話的で深い学び」が実現できるように生徒が自己を表現できる場面を効果的に設定していく。 ・予習した内容を授業につなげるなど予習した内容が生きる活動や復習の仕方を工夫することで、更に学力や意欲の向上を図っていく。
**	真 地域を愛し協働して貢献でき、夢を抱き夢への道を拓く生徒	自己の生き方を考える力の育成 ★夢を持ち、夢を語り、志高く自己の生き方を考え、地道によりよく生きるための努力をする生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な機会、生徒自身の考えや生き方を表現できる場の設定をすることができた。 ・生徒へのアンケート(「100の出会いや地域の方から新しい価値観を学ぶことができたか」)の結果は肯定的評価は100%であった。 ・保護者へのアンケート(「様々な行事や教育活動を通して自己を表現する力が伸びていると思うか」)の肯定的な評価の割合も100%であった。 ・自己の進路について目標をもって生活できている生徒が多いが、目標が定まっていない生徒もいる。 ・生徒会執行部が中心となって、挨拶や時間を守る意識の向上の取組を行っており、生徒の自律的な活動を行うことができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も様々な方々を招聘し、多くの出会いを設定することで自己の価値観や多様性について考えていく機会としたい。
		協働的に関わる力の育成 ★地域や仲間を愛し、相手の気持ちを尊重して協働し、積極的に貢献しようとする生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果(「私は、蒲刈のことが好きだ」など肯定的な回答100%)からもわかるように地域への愛着は深い。地域を活性化するための様々な活動を積極的に取り組む姿が見られた。 ・授業や行事を協働で取り組むことを通して、仲間の大切さや協力していくことの意義を学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の進路相談やキャリア教育を充実させていくことで、長期的な目標や短期的な目標を持たせて学校生活を送らせる。 ・引き続き、生徒会などの自主的な活動を通して自律的な生活ができるよう取り組んでいく。
*	真 働き方改革の視点で業務改善を行う	組織的な協働による効率的な仕事分担	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員へのアンケート(「効率的な仕事ができるよう、職場での協働を意識した」)の肯定的な回答が100%)からわかるように協働的に取り組める学校になっている。 ・時間外の勤務時間は、来年度からの基準を満たして行くには課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度の統合に向けて、できるだけ今年度中に必要書類等を整備し準備しておくことで、スムーズな統合につなげ、統合による負担感を軽減していく。 ・業務内容の見直しや行事の精選、データの整理等を行い、更なる効率化を図っていく。

